

令和2年度 外国人特別研究員(一般・第2回) 採用者一覧

氏名・国籍	受入研究者	専攻分野	研究課題	採用期間
YUAN Junji 中国	桑江 朝比呂 海空研・グループ長	自然共生システム関連	沿岸湿地堆積物における嫌氣的メタン酸化速度と反応経路の制御	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
GEONZON Lester Canque フィリピン	小林 幹佳 筑波大・准教授	地域環境工学および農村計画学関連	土壌・水環境技術の基礎としての高分子電解質の吸着および凝集のダイナミクス	2020/11/30～2022/11/29 (24か月間)
KIM Hangil 韓国	増田 税 北大・教授	植物保護科学関連	キュウリモザイクウイルスの2bによる宿主抵抗性のエビジェネティクス制御の研究	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
WANG Wenlong 中国	王 正明 産総研・上級主任研究員	環境負荷低減技術および保全修復技術関連	ワイドバンドギャップ光触媒補助深紫外線による水中微量難分解有機物除去	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
KUMAR Vijay インド	高須賀 太一 北大・准教授	森林科学関連	ワンセルファクトリーによるセルロース系バイオマスのPHAsへの一貫生産技術の確立	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
HAMIM Islam バングラデシュ	小松 健 農工大・准教授	植物保護科学関連	植物RNAウイルスの感染個体内におけるゲノム多様化と病徴発現の分子機構	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
JIMENEZ SERNA Juan De la cruz コロンビア	中園 幹生 名大・教授	遺伝育種科学関連	イネの根における酸素漏出バリア形成の遺伝学的・生理学的調節機構の解明	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
RIAZ RAJOKA Muhammad shahid パキスタン	北澤 春樹 東北大・教授	動物生産科学関連	菌体外多糖産生イムノバイオティック乳酸菌による抗ウイルス性家畜健全育成戦略	2020/11/01～2022/10/31 (24か月間)
HUANG Songqian 中国	浅川 修一 東大・教授	水圏生命科学関連	軟体動物でユビキタスに発現するpiRNAの機能の解明	2020/11/01～2022/10/31 (24か月間)
ELADAWY Ahmed Abdelraheem mohammed elsayed エジプト	中村 隆志 東工大・准教授	環境動態解析関連	沿岸生態系の複合環境ストレスに対する脆弱性評価のための統合モデリングとマッピング	2020/11/30～2022/11/29 (24か月間)
CHANG Yunhua 中国	持田 陸宏 名大・教授	環境動態解析関連	有機エアロゾルの化学構造およびその起源・光吸収特性との関係	2020/09/20～2022/09/19 (24か月間)
APPIAH Kwame Sarpong ガーナ	岡崎 伸 農工大・教授	植物栄養学および土壌学関連	アレロケミカルの土壌微生物による生物学的変換作用と植物毒性への影響	2020/10/01～2022/09/30 (24か月間)
PAUL GUIN Jhimli インド	佐久川 弘 広島大・特任教授	環境負荷低減技術および保全修復技術関連	金属フリー可視光応答型光触媒薄膜を用いた超難分解性化学物質の分解処理	2020/10/01～2022/09/30 (24か月間)
KHATUN Hafiza バングラデシュ	杉村 智史 農工大・准教授	動物生産科学関連	卵子の発生能獲得に関与する卵胞内微小環境の解明	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)
YANG Yongshou 中国	加藤 久典 東大・特任教授	食品科学関連	卵殻膜由来のレジスタントプロテインによる腸内細菌叢改善効果の統合オミクス研究	2020/10/01～2022/09/30 (24か月間)
ARIEFTA Nanang Rudianto インドネシア	西川 義文 帯広畜産大・教授	生物有機化学関連	植物内生真菌を用いたケミカルバイオロジーによる抗トキソプラズマ薬の探索	2020/10/01～2022/09/30 (24か月間)
SEN Sandeep インド	津田 吉晃 筑波大・准教授	生物資源保全学関連	クロコショウ野生種と栽培系統の過去と将来: 気候変動下における保全ゲノミクス	2020/11/30～2022/11/29 (24か月間)
WAINAINA Cornelius Mbathi ケニア	犬飼 義明 名大・教授	遺伝育種科学関連	水管理により誘導される出穂遅延機構の解析とその冷害回避育種への応用	2020/09/01～2022/08/31 (24か月間)